

令和元年 12 月定例記者会見及び 11 月月例記者会見

1. 12 月定例記者会見

【 説 明 】

〔12 月議会案件〕

市長 令和元年度 12 月の定例会に提出する案件の内容ですが、議案等件数が 17 件で、そのうち専決処分の報告が 2 件、補正予算 2 件、条例 9 件、指定管理者の指定が 3 件、人事案件が 1 件となっています。補正予算の主なものは、まず、私立保育所運営等助成費で、市内にある新たに病児保育を開始される診療所へ補助をするものです。2 つ目は私立保育施設整備助成費です。生駒市では 19 人以下の小規模保育の開設にも力を入れています。新たに 1 件開設されますので、施設の改修等の費用の助成を増額するものです。3 つ目は鳥獣被害防止対策事業費ですが、イノシシ等の鳥獣被害が増えており、個人で防除柵を設置されるケースが増えておりますので、それに対する補助と、地域で広範囲で設置される柵等の補助について、当初予算の範囲を相当超える見込みですので、補助枠を広げるための補正です。最後に体育振興事務費ですが、来年のオリンピックの聖火リレーで生駒市もコースになり、それに伴う奈良県実行委員会に対しての負担金を計上するものです。

次に、条例案件ですが、行政組織の改編について、生駒市行政組織条例の一部を改正します。AI、IoT やロボットの活用、また、高山第 2 工区の開発にも関連して、その整備をしていく必要がありますし、オープンデータを活用したまちづくりや、日進月歩で進んで行く ICT に対して、生駒市がついていくだけではなく、トップランナーとして進めるために、地域活力創生部の中に ICT イノベーション推進課ということで、専属の課を配置します。また、今年 7 月に「SDG s 未来都市」に認定されましたので、より広い概念から環境モデル推進課を SDG s 推進課に改めます。その他、防災安全課にあった公共交通のたけまる号に関する業務を建設部の事業計画課に移管します。

続きまして、「生駒市手話言語の普及並びに障がいの特性に応じた多様なコミュニケーション手段の理解及び利用の促進に関する条例」についてです。手話言語条例を制定している自治体は多いですが、色覚、言語など様々な障がいのある、日常生活に困難を抱えられている方のコミュニケーションに対して、その困難さを小さくしていく「ユニバーサルコミュニケーション都市」を目指すため、配慮をしていく為の条例です。具体的には、まず「見やすさ」ですが、生駒市では既に全国に先駆けて教育現場に UD フォントを導入していますが、学校現場に限らず、広報紙をは既に使用していますが、市が発行している市民に対する様々な通知、パンフレットなどの印刷物に UD フォントを使っていきたいと思っております。明朝体では読みづらく理解しづらいものが、UD フォントを使うことで理解度が増して、市に対する問い合わせ等も減ることも考えられます。後は色覚に問題のある方に対して、カラーユニバーサルデザインに対応した掲示やパンフレットの色使いへの対応を出来るところからやっていきたいと思っております。印刷物へのふりがなの表記や文字の工夫だけではなく、目で見ても分かるようにピクトグラムと言われるもので案内するようにします。「伝わりやすさ」については、障がい福祉課を中心に、その場での手話に加えて、タブレットを用いて遠隔での手話サービスも導入したいと思っております。UD トークというアプリを使って、喋ったこと

が文字情報に変換してスライド等に表示するという事も考えております。また、大きなセミナーでは手話通訳者がいますが、小さなセミナーで手話サービスがない場合でも、やり取りをスクリーンに映し、障がいのある方もセミナーに参加できるようにしたいと思います。聴覚障がいのある職員もいますので、他の職員とのコミュニケーションのためこれらのUDトークも使えると思います。その他、図書館での音訳サービスであったり、長年、広報紙の音訳、点訳をして頂いている市民団体の方もおられるので、先ほどのアプリでの取り組みと合わせながら、ユニバーサルコミュニケーション都市を目指していきたいと思っております。

「参加しやすさ」ということでは、当然のことながら、行事の申し込み手段にメール等を使い多様化したり、行事などで手話通訳者などを配置していきたいと思っております。手話言語のみならずいろんな形で障がいのある方とコミュニケーションをしやすくなるよう取り組んでいきたいと思っております。これは、県内で初めての条例制定になります。

最後は、「生駒市立保育所の設置等に関する条例の一部を改正する条例」で、具体的な内容は各保育園の定数の改正です。待機児童解消に向け、保育室面積等を勘案し適正な定員数を割りだし、入所定員を増加させるためです。これに伴い保育所紹介のバスツアーなどを実施し、保育士の確保も図っていきます。生駒市では夫婦共働きの子育て世代の転入も増えておりますので、保育所需要もまだまだ増えると考えておりますが、さらに待機児童解消に取り組んでいきたいと考えております。

【 質疑応答 】

(ユニバーサルコミュニケーション都市)

記者 条例の施行は4月1日ですが、すでに取り組んでいるものもあると思います。今紹介頂いたものは、来年度以降ということですか。

市長 基本的には4月1日以降ですが、例えば印刷物へのUDフォント導入については、既に広報紙では取り入れておりますし、一部のパソコンではUDフォントを利用できるので、職員が個別に使用してチラシを作ったり、試験的にUDトークを使って講演会をしたり、ということはあると思います。条例の施行は4月1日ですので、新たな予算措置があるものを除いて、先に出来ることはどんどん進めていけばいいと思います。

記者 手話言語条例は県にもあり、他自治体でも例はあると思いますが、それでは不十分ということで今回の条例制定ということですか。

市長 不十分ということでもありませんし、手話言語は重要と考えておりますが、それ以外に例えばアプリ等を使って支援出来ることもあると思います。今回はコミュニケーションというところに視点を置いておりますので、聴覚障がいだけではなく、色覚、視覚障がい、言語の障がい、身体障がい等幅広く対応していくことが必要であると考えております。

(行政組織条例)

記者 機構改革の件ですが、「SDGs」というのを自治体の部署の名前にしている例は、他にはありますか。

担当課長 横浜市がしています。

記者 「ICT」の方はどうですか。

担当課長 いくつか例はあったかと思えます。

市長 「SDGs」では都道府県や政令指定都市に多いと思います。神奈川県や北九州市にもありま

す。都道府県や政令指定都市以外では珍しいと思います。

記者 「ICT」については、募集されている民間人材の採用にも関連していますか。

市長 はい、しています。ICT の機能をより強化していくということです。今回募集している人材を想定しながら、例えば商工観光課の中に観光振興室というのを設置しますが、今回募集の中に観光部門がありますし、外部人材の募集と一定連動しているところはあります。

2. 11 月月例記者会見

【 説明 】

【ゼロ・カーボンシティ生駒の実現に向けて】

市長 2050 年までに CO2 排出量実質ゼロというのが、このゼロ・カーボンシティの定義ですが、非常に困難な目標ではありますが、SDGs 未来都市にも認定されておりますし、こういう方向性を目指して、しっかりと取り組みをしていきたいと思っております。今回これをさせて頂く背景には、12 月には気候変動枠組条約締約国会議 (COP) があります。小泉大臣が出席される国際会議ですが、大臣の意向で各自治体の気候変動への取り組みをより重視して、それを積み上げていくことで、日本としての積極的な姿勢を発信していきたいということで、生駒市にも環境省からも照会があり、その趣旨に賛同しましたので宣言をさせて頂きました。11 月 22 日現在で、都道府県で 4 つ、政令指定都市で 2 つ、小田原市で、全部で 7 つ宣言しています。政令指定都市以外の市としては、自治体電力会社を立ち上げていて環境問題に非常に熱心に取り組んでいる、小田原市に次で 2 番目ということになります。具体的には、環境モデル都市アクションプランや SDGs 未来都市計画を既に定めておりますが、その取り組みをしっかりと実施していくことと、民間企業を含めた技術革新を進めて、使用する電力と生み出す電力が同一になり「ゼロ」にするまちを目指していきたいと思っております。生駒市の CO2 の排出量は着実に減少していますし、いこま市民パワーの取り組みや太陽光発電を各ご家庭に設置していくなど、今まで以上に取り組みさせて頂きたいと思っております。

【人と人がつながるお出かけツアー「いこまトリップ」】

市長 生駒の魅力を知り尽くした市民の皆さんに企画してもらい、その市民の方に案内をして頂くという、生駒らしい取り組みである市民の方によるツアーになります。具体的には、市民の PR チームである「いこまち宣伝部」のメンバーが有志で取り組みをして頂きます。3 つのコースがありますが、1 つ目は、「生駒に酔いしれる マリアージュ体感ツアー」で、11 月 27 日に生駒市にある日本酒の上田酒造と谷口ワイン店へ行き、作り手の方のお話を聞きます。こちらは既に参加者の募集は終了しています。2 つ目は「聖天さんの贈り物ノスタルジックな休日」ということで 12 月 8 日に予定をしております。宝山寺の僧侶の方にお話を聞き、宝山寺の近くにある「ナイヤビンキ」という店で食事をし、図書館のイベントでもお話を頂いた、「Bar Charleston」へ行きます。生駒を代表する飲食店を組み合わせています。3 つ目は生駒市在住の人気陶芸家の高島さんにご指導を頂き、陶器を作るという企画です。生駒市の市民の方が面白い人や場所を考え企画して頂き、単に観光業者に依頼をするということではなくて、こういう取り組みの実績を蓄積して、奈良とか京都とかの取り組みを真似るのではなく、生駒らしい観光に力を入れていくときに非常に役立つと思っております。詳細につきましては、いこまの魅力創造課にお問い合わせください。

〔はばたき Book・Hygge を初開催〕

市長 図書館のワークショップの参加者を中心に「高山茶釜の会 wi-wi」という市民のグループが出来て、図書館を中心に、主に茶釜や茶道について子どもたちに指導や体験をされています。このグループと共催による事業となります。具体的には12月1日に北コミュニティセンターで、屋外で図書館をしたり、読み終えた本の内容を紹介して互いに物々交換します。交換をするということで、コミュニケーションも生まれということもあります。茶室で自分でお茶を点ていただいたり、生駒ふるさとミュージアムの方に来てもらい、勾玉づくり体験を行います。後は食べ物の販売もあります。図書館ワークショップから生まれた市民団体の方が中心となりやって頂いているイベントですので、市もしっかり応援していきたいと思っております。

〔全国初！「食品トロック」を行います〕

市長 4つ目は食品ロスの取り組みです。毎年環境フリーマーケットを行っておりますが、これを工夫して、全国初で「食品トロック」というものを始めます。トロックというのは、フランス語で物々交換ということで、例えばお菓子や缶詰などの食べ物を持ち寄り、お互いに交流しながら交換したり、フランスでは食品入りの冷蔵庫を持参して、必要としている人が持ち帰るということもしています。今回初めての取り組みなので、どんな形になるか手探りの状況ですが、職員の提案として非常に面白いと思っております。自治体でするのは全国で初めてということになります。食品ロス対策としては、フリーマーケットの取り組みは、子どもの教育とか稼ぐ力とか、例えば子供が近所をまわり、不要なものを集めて、それに値付けをしたり、値段交渉をしたりすることで、子どもたちが成長をしますと思っておりますので、学びの場としてフリーマーケットをどんどんやっていきたいと思っておりますし、子どもたちがお金を稼ぐということについて、いい形で体験できるのにも役立つと考えております。リユース市やもったいない食器市も行います。

〔岡田侑子さんのトーク&コンサート「左手で紡ぐ豊かな音楽」を開催〕

市長 左手のピアニストの岡田侑子さんですが、人権教育公開講座「山びこ」で、12月13日に演奏をしてもらいます。今まで生駒市でも岡田さんの公開での演奏会は行ってきましたが、今回で最後となる予定です。岡田さんは局所性ジストニアという病気を発症し、右手ではピアノを弾けないということでご自身も憔悴されましたが、気持ちを切り替えられて、左手だけで弾ける曲を発掘し、左だけで弾けるように編曲したりして楽曲を演奏されています。生駒市在住でもありますし、今回が最後ということで私から紹介をさせて頂きました。音をうまく響かせながら、その音が続いている間に弾くなどをして音を重ね合わせ、左手一本で弾いているとは思えないほどの非常に豊かな音楽を奏でられ、私も感動をいたしました。

【 質疑応答 】

〔岡田侑子さんのトーク&コンサート「左手で紡ぐ豊かな音楽」〕

記者 生駒で演奏されるのが最後ということですか。

市長 公開でのピアノ演奏は今回が最後ということですよ。

〔人と人がつながるお出かけツアー「いこまトリップ」〕

記者 今回が初めてということですが、通常会社がツアーを組む時などは主催旅行とか募集など

について、旅行業法の縛りがあると思うのですが、どういう枠組みでされるのですか。他の自治体が行っている移住者向けツアーみたいなものですか。旅行業法との兼ね合いはありますか。

担当課 旅行業法は全てクリアしています。自治体が運営するツアーとして行っておりまして、旅行としてはしておりません。

記者 ツアーと言ってしまってもいいんですか。

担当課 大丈夫です。

〔ゼロ・カーボンシティ生駒の実現に向けて〕

記者 本日排出ゼロ宣言をしたということでいいですか。

市長 そのとおりです。

（その他の質問）

記者 行革推進委員会がいきいきカード廃止を3回目の提案として提言しているということですが、どう対応されますか。

市長 内容について様々な改善しなければならない課題もあり、高齢者が増えていく中で中長期的にどのように見直しを考えていくのか、あとは、「スルット KANSAI」がなくなり、鉄道関係で使い勝手が良くないという指摘もありますので、短期的に改善するところと中長期的なところを検討していきたいと思っております。行革推進委員会では、いきいきカード以外にも相当踏み込んだ指摘をして頂いておりますので、提言どおりにはなかなか難しいですが、一つ一つ重く受け止めて、見直しをしていくものもありますし、改善していくものもあります。

記者 いきいきカードについては、止める考えはありますか。

市長 大きな予算ですが、大変助かっているという意見も多いので、今すぐはありません。

記者 監査委員の選任の件が12月議会にも提案がなく、そのままですがどうされますか。

市長 12月議会には提案していませんが、今後早い段階で決めたいと思います。

記者 弁護士にすることも含めて検討中ですか。

市長 いろんな方がおられるので、議会での意見も踏まえて検討します。

記者 電気料金の関係ですが、市民パワーから買っている料金は、12月が改定の時期ですが、今回も変えないのですか。

担当課長 そのままです。

記者 最初からずっと変えていないということですね。関西電力の表示価格よりも低いということですか。

市長 今まで言ってきているとおりです。

記者 監査請求が出ているようですが、もっと安価なところがあるが、それ以上の理由があるということですね。

市長 関西電力も昔ほど安値攻勢をしなくなったと理解しています。他の自治体も自治体電力へ初期の数期間は、随意契約をしているところも多いです。いこま市民パワーにもいつまでも随意契約し続けるということではありません。今後個別への供給も考えておりますので、経営を強化していく中で、見直しすることもあると思いますが、来年に関しては現行どおりです。

記者 預かり保育料の改正について、事前に議会には説明されていなかったということですが、規則の改正なので議決対象ではないですが、通常こういう案件は事前に議会に報告するような内容

だと思うのですが、なぜされなかったのですか。

市長 規則の改正については、全て事前に議会に報告するものでもありませんが、結論から言うと今回のケースは事前に報告すべきであり、反省をしております。

記者 議会を軽視されていると言われてもしかたがないと思うのですが、担当のこども課からは事前に議会に報告することの打診はなかったのですか。

市長 出す出さないを明確に指示したことも含めて、打診があったかどうかは記憶にはありません。全てではありませんが、議会に報告すべきかどうかは担当に任せている部分もあります。今回は事前に報告すべきであったのに出来ていなかったことについては、最終的には市長である私の責任であると思います。

副市長 市長への打診はなかったと思います。教育委員会の中での判断ということになります。

市長 最終的には私の責任であると思います。

記者 プロ人材採用の件ですが、かなり多い 1000 人の応募者があったということですが、このことについての市長の所感と、これだけ多く集まった理由をどう分析されていますか。また、採用者に何を期待されますか。

市長 初めての取り組みでしたが、多くの方に応募して頂き有難いと思っております。以前から社会人の中途採用は行っておりましたが、今回増えた要因は、エン・ジャパンのデータベースを利用させて頂き、今まで公務員に関心がなかった方まで周知できたことが大きいと思っております。今回の採用がいろいろなところで話題になっており、地方創生の流れの中で、公務員という、パブリックの仕事に関心のある民間の方も増えているように感じています。副業、兼業、テレワークなどで働き方を今までにないほど柔軟にしております。テレワークでも働けるような採用を提案したのは、恐らく全国でも初めてで、これまでにない働きやすさを提案したことも要因であると思います。働きやすさだけではなく、生駒市の今までのいろいろな先駆的な面白い取り組みなどにも共感をし、自身のキャリアアップになると思って頂いていると考えます。期待することは、現在も生駒市は皆さんに高い評価を頂いておりますが、それをさらに加速するような専門性を存分に発揮して頂ければと思います。

(了)